

四国民放クラブ日より

■私の音楽遍り歴

河野 照雄 (RKC)



ジャズ編

トラディションショナルジャズの中で、今回は、デイキシシーランドジャズについて書きます。前回は、ラテン音楽について書きましたが、これは、先輩や先生方の影響によるものですが、今回は、映画の影響です。

1953年(昭和28年)制作のジェームズ・スチュワート主演の『グレン・ミラー物語』です。『ムーンライト・セレナーデ』や『真珠の首飾り』『茶色の小瓶』等の曲ではなく、印象に残ったのは、『アメリカン・パトロールマーチ』

と『セントルイス・ブルースマーチ』の2曲です。これは、高校時代の運動会で出退場時に、よく使ったSP盤の行進曲を回していた関係で、記憶に残っていたためです。その時、『セントルイス・ブルース』とはと思った時が、デイキシシーランドジャズを知る切っ掛けとなりました。

当時の娯楽は、映画とラジオが主流で、今思い出すとジーン・ケリー主演・監督の『雨に唄えば』、ステイブ・アレン主演『ベ・ニイ・グッドマン物語』、ダニー・ケイ主演『5つの銅貨』等を思い出しましたが、今は、DVDで鑑賞できる時代です。

数年前に、DVDで購入したのがルイ・アームストロング主演『ニューヨークオリンズ』とドーシー兄弟主演『トミー&ジミー・ドーシー物語』などです。

本来のデイキシシーランドジャズに話を戻しますと、高校時代に、これらの映画を見たわけですが、やはり、強烈な印象は、トランペット&コルネット奏者でボーカルのサッチモことルイ・アームスト

ロングです。

数々の名演奏の中で、私の好きな曲は、先ず『セントルイス・ブルース』でしょう。さて2曲目ですがなかなか決められないので、列記します。

『タイガー・ラグ』『ロイヤル・ガーデン・ブルース』『マホガニー・ホール・ストンプ』『ロッキン・チエア』『ハイ・ソサエティ』『この素晴らしき世界』『ベイジン・ストリート・ブルース』『聖者が町にやってくる』『チャイナタウン、マイ・チャイナタウン』『セント・ジェームス病院』等など。この中でも、特に1947年5月録音の『ロッキン・チエア』は、白人トロンボーン奏者ジャック・ティーターガードとのコラボで有名な『ロッキン・チエア』で、絶妙な協調だと思えます。『セント・ジェームス病院』は、これまた、ジャック・ティーターガードのソロで、トロンボーン朝顔(ベル)をはずし、コップでミュートをかけ独特の表現をした名演奏です。

ルイ・アームストロングは、1900年7月4日生まれなので、私がサッチモを知ったのは53歳の時です。1971年7月6日に亡

くなっていますから、18年間しか知ることがなかったのです。従って、モノラル録音が主になっています。

次に、エラ・フィッツジェラルドとの共演をあげたいと思います。ここでは、1956年8月録音で『デンダリー』『チーク・トゥ・チーク』の2曲をあげたいです。

今回は、私のデイキシシーランドジャズ入門の切っ掛けになったことと、普段、聞いているCD盤の中から選びました。しかし、私以上に、デイキシシーランドジャズを愛するRKC高知放送の先輩が居られることを、報告します。



※四国民放クラブの皆様へ「会員日より」と、諸々の執筆を待ちしています。四国各県担当者かRKC長田まで連絡ください。